



2015年5月18日

各 位

会社名 ユニチカ株式会社
代表者名 代表取締役社長 注連 浩行
(コード番号 3103 東証第一部)
問合せ先 執行役員経理部長 石川 省二
(TEL 06-6281-5721)

(訂正)「平成27年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

2015年5月12日に発表いたしました「平成27年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」について一部訂正すべき事項がありましたので、お知らせいたします。なお、数値データ(XBRL)の訂正はありません。

記

訂正箇所

訂正箇所は、次頁に訂正前と訂正後を記載の上、下線を付して表示しています。

<添付資料 2 ページ>

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

① 当期の経営成績

【訂正前】

【高分子事業】

フィルム事業では、包装分野は、消費税増税後の食品や生活雑貨の消費低迷などの影響を受け、国内では販売数量が減少しましたが、海外向けは堅調に推移し、売上は増加しました。工業分野は、電気・電子機器用途の市況回復により、販売数量、売上ともに増加しました。また、新商品である離型ポリエステルフィルム「ユニピール」や高耐熱性ポリアミドフィルムの販売も好調に推移しました。この結果、事業全体で増収増益となりました。

樹脂事業では、ナイロン樹脂は、軽自動車や電動工具用途の販売が堅調に推移し、当社独自のポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、スマートフォン用途で販売が増加し、事務機器関連も安定的に推移しました。環境配慮型の水性エマルジョン「アローベース」は、期後半から需要が増加し、高耐熱性ポリアミド樹脂「ゼコット」は自動車用途などで採用が進みました。この結果、事業全体で増収増益となりました。

【訂正後】

【高分子事業】

フィルム事業では、包装分野は、消費税増税後の食品や生活雑貨の消費低迷などの影響を受け、国内では販売数量が減少しましたが、海外向けは堅調に推移し、売上は増加しました。工業分野は、電気・電子機器用途の市況回復により、販売数量、売上ともに増加しました。また、新商品である離型ポリエステルフィルム「ユニピール」や高耐熱性ポリアミドフィルムの販売も好調に推移しました。この結果、事業全体で売上は横ばいでしたが、増益となりました。

樹脂事業では、ナイロン樹脂は、自動車や電動工具用途の販売が堅調に推移し、当社独自のポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、スマートフォン用途で販売が増加し、事務機器関連も安定的に推移しました。環境配慮型の水性エマルジョン「アローベース」は、期後半から需要が増加し、高耐熱性ポリアミド樹脂「ゼコット」は自動車用途などで採用が進みました。この結果、事業全体で売上は横ばいでしたが、増益となりました。

以 上